



10 舞楽図花活 1点 並河靖之

有線七宝 明治10年(1877)  
9.6×12.0×33.0

本作は抜頭と迦陵頻の舞の一場面と大太鼓を側面中央に、その上部には12種もの舞楽装束の甲を、下部には笙や箏などさまざまな楽器を配して、表面全体に雅楽のモチーフをちりばめた七宝製の花活である。その器形は、胴部が膨らみ首と脚の部分がすぼまるもので、中国古代銅器の形状をかたどっている。図様の各色には、江戸時代に行われていた七宝を思わせる不透明な釉薬が用いられているが、桐と唐草の地文様には透明度の高い褐色の釉薬が使用されている。

本作は作者、並河靖之(1845～1927・明治29年帝室技芸員に任命される)の初期の代表的作品であり、当時、並河が到達した技術が示されていることでも注目される。明治10年第1回内国勸業博覧会の出品作で、他に出品した幾つかの七宝作品とともに鳳紋賞牌を受賞した。





10 側面

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

雅楽―伝統とその意匠美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 37

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十七年四月十六日発行

©2005, The Museum of the Imperial Collections